

授業科目名	クリティカルケアⅡ			担当教員	苑田 裕樹、小川 紀子	
開講年次	3 年前期	セメスター	5	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	救急およびクリティカルな状況下にある患者への看護を展開するための方法を習得する。					
到達目標	・病態と症状から観察項目を見出すことができる。 ・クリティカルな状況にある患者の状態を観察できる。 ・得た情報をアセスメントし、患者の看護問題を抽出することができる。 ・看護問題に対して具体的・個別的看護計画を根拠に基づいて立案することができる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目は、クリティカルケアⅠで既習の「生命の危機的状況にある患者および家族への看護」についての知識を発展させ、患者の観察方法（フィジカルイグザミネーション / モニタリング / 検査データの見方）、患者アセスメント、および看護ケアの実際を学ぶための演習科目である。また、クリティカルケア実習前の演習科目として、事例を通し重症患者への看護過程についても学ぶ。 講義・演習を通じて自らの課題を客観的な視点から見出し、クリティカルケアⅡだけでなくクリティカルケア実習で目標達成するための自己教育力を育成する。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		◎	○			
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	【授業ガイダンス】 ・科目の位置づけ、授業スケジュール、事前・事後課題、演習進め方について ・確認テスト	講義	予習：クリティカルケアⅠ講義資料の振り返り（確認テスト）	2 時間	苑田 小川	
2	【クリティカルケア看護に必要な看護技術】 急変時の看護、救急処置を必要とする患者の看護	講義 演習 (AL)	予習：救急看護学第 5 章「主要病態に対する救急処置と看護」	1 時間	苑田 小川	
3	【クリティカルケア看護に必要な看護技術】 水分出納管理、モニタリング	演習 (実技)	予習：クリティカルケアⅠ資料の振り返り	1 時間	苑田 小川	
4	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 病態・症状から観察項目を検討・立案する	演習 (GW)	予習：事例患者のプロフィール用紙・病態生理の理解を深める 復習：観察項目の立案を完成させる	各 2 時間	苑田 小川	
5	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 ・意識レベルの評価 ・人工呼吸器の管理 ・ドレーン／チューブ類管理	演習 (実技)	予習：クリティカルケア看護学第 2 章「クリティカルな患者のアセスメント」、クリティカルケアⅠ講義資料の振り返り 復習：演習内容の復習	各 1 時間	苑田 小川	
6	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 家族への看護	演習 (GW)	予習：クリティカルケア看護学第 1 章「クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴」、第 5 章「危機状態にある患者・家族へのケア」 復習：事例患者の家族看護について整理する	各 1 時間	苑田 小川	

7	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 ・受け持ち患者に必要な観察項目の検討	演習 (AL)	予習：事例患者の観察項目の立案、 気管挿管中の口腔ケア 復習：事例患者の観察方法、アセスメントの方向性を検討 (オフィスアワーを活用する)	各 2 時間	苑田 小川
8	・フィジカルアセスメント／モニタリングの手技の練習 ・アセスメントの方向性の検討 ・気管挿管中の口腔ケア練習				
9	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 ・確認テスト（中間）	演習 (AL)	予習：事例患者の観察項目の立案、 手技の獲得、確認テストのための知識の整理 復習：事例患者のアセスメント、問題点の抽出	各 2 時間	苑田 小川
10	・受け持ち患者に観察とアセスメント				
11	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 受け持ち患者の観察結果から現在の状態についてアセスメントし、問題点を抽出する	演習 (GW)	予習：事例患者の看護展開 復習：事例患者の看護展開	各 2 時間	苑田 小川
12	【受け持ち患者への看護計画の検討】 抽出された看護問題への介入方法を検討する	演習 (GW)	予習：事例患者の看護過程の展開 復習：看護計画についての検討、発表資料の作成	約 2 時間	苑田 小川
13	【受け持ち患者の看護展開】 看護計画の発表会	演習 (発表)	予習：発表会に向けての資料作成、 技術演習（オフィスアワーを活用する）	2 ～ 3 時間	苑田 小川
14					
15	【まとめ】 クリティカルな状況にある患者への看護展開についてのフィードバック	講義	復習：定期試験に向けての確認	2 時間	苑田 小川
先行履修科目		2 年後期までに履修すべき全ての科目			
テキスト		1) 道又元裕 他著：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学. 医学書院, 2016. 2) 山勢博彰・山勢善江 他著：系統看護学講座 別巻 救急看護学. 医学書院, 2016.			
参考文献		寺町優子・井上智子・深谷智恵子 編集：クリティカルケア看護 理論と臨床への応用. 日本看護協会出版会, 2007. その他：適宜提示する。			
評価方法		筆記試験 50%、確認テスト 10%、事前・事後課題・最終発表成果物 30%、複合技術演習 10%、授業への主体的な参加など（遅刻など－1 点、欠席－2 点）を総合的に評価する。			
教員等の実務経験		看護師の臨床経験のある教員が、その経験を活かして、クリティカルケア領域の看護について講義・演習を行います。			
メッセージ		ICU や CCU などで行われている看護は、特殊な技術を用いているように捉えられていることが多いのですが、実際には看護の基礎を理解した実践が求められている領域だと思っています。病態が複雑であったり、重症で高度な治療が必要だったりするかもしれませんが、対象となる患者はその中で生活している人です。これまで学習した知識や観察の技術、日常生活援助の技術のすべてを駆使し、患者に合わせた工夫をし、小さな反応を見逃さずにケアを行っていくことが必要です。難しいこともあるとしますが、命を救い、生を支える看護をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。			